

## 説教題：幼児のような信仰(3～4)

聖書:マタイ 18章1～5節

<口語訳>

新約聖書28～ 頁

マタイ 18章1～5節

<新共同訳>

新約聖書34～ 頁

マタイ 18章1～5節

<新改訳第3版>

新約聖書35～ 頁

マタイ 18章1～5節

<塚本訳>

新約聖書120～121頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。

◇本日は、**マタイ17:21～27節**の箇所から、「**神(天)の国**」(**神の真理・真実**)の隠された奥義を心にとめたいと思います。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、**ピリポ・カイザリヤ**から**ガリラヤ**に帰り、弟子たちにご自身の死と復活について予告をなさいました。

⇒それは、弟子教育のためで、群衆やその他の**ユダヤ人**のためでもありませんでした。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、**出エジプト記30章11～16節**に律法として規定されていた宮への納入金のことにつれ、譬えを用い、王子には納税の義務がないと語りつつ、人々をつまづかせないために、魚から銀貨を取って、納税することをなさいました。ユダが財布を管理していたので、納税できたのですが、弟子たちの教育のため、奇蹟をされました。

本論；

◇本日、**マタイ書18章21：1～5節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ18章1～5節**；**使徒マタイ**は、「**幼子のような信仰**(3～4)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**マタイ18：1～5節**；**塚本訳**◆

◆**子供のようになれ**<1～9>

- 1 その時、弟子たちがイエスの所に来て、「ではいったい(われわれのうちの)だれが天の国で一番えらいのですか」とたずねた。
- 2 イエスはひとりの子供を呼びよせ、彼らの真中に立たせて
- 3 言われた、「アーメン、わたしは言う、あなた達は生まれかわって子供のように(小さく)ならなければ、決して天の国に入ることはできない。
- 4 だから、この子供のように自分を低くする者、それが天の国では一番えらい人である。
- 5 またわたしの名を信ずるこんな一人の子供を迎える者は、わたしを迎えてくれるのである。

と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ21:1～5節**；では、「その時、弟子たちがイエスの所に来て、「ではいったい(われわれのうちの)だれが天の国で一番えらいのですか」とたずねた(1)。「イエスはひとりの子供を呼びよせ、彼らの真中に立たせて(2)、言われた、「アーメン、わたしは言う、あなた達は生まれかわって子供のように(小さく)ならなければ、決して天の国に入ることはできない(3)」。だから、この子供のように自分を低くする者、それが天の国では一番えらい人である(4)。またわたしの名を信ずるこんな一人の子供を迎える者は、わたしを迎えてくれるのである(5)。」と、「**御子イエス・キリスト様**」、「幼児」を弟子たちの前に立たせ、「あなた達は生まれかわって子供のように(小さく)ならなければ、決して天の国に入ることはできない(3)」、「から、この子供のように自分を低くする者、それが天の国では一番えらい人である(4)。またわたしの名を信ずるこんな一人の子供を迎える者は、わたしを迎えてくれるのである(5)」と、弟子たちの信仰の有り方を示さる。

- ⇒「幼子のような信仰(3～4)」は、幼稚で知恵が足りない信仰という意味ではなく、**OA師**は、主が、誰が偉いかと発想している弟子たちに発想を転換して、子供と同じ低い所に自分を置くことを求めておられると、語っておられます。
- ⇒「偉い」(4)は、「小さい」と比べ、「大きい」という意味で、「**神(天)の国**」(「**神の真理・真実**」)では、身を低くして主にお仕えすることが求められ、身分とか資格の優劣は、問われないのです。
- ⇒「生まれかわって」とか、子供のように「なる」は、ヨハネ3:3のニコデモに主が求められた、「新しく生れる」とか、創世記1:3の光が「あった」と、同じで、全く新しくされることです。
- ⇒「新しくして下さる」のは、主の働きで、自分で変身すると思いつくのは、自己欺瞞です。
- ⇒私たちは、霊に於いて生まれかわっても、なお、罪人で、自己中心の発想をする者ですから、主の恵みとみことばによって、発想を変換していただく必要があるのです。

⇒サンヘドリンと言われるユダヤの国会議員  
だったニコデモは、プライドを主に委ね、主に  
従う弟子となりました。パウロも、同じです。

⇒**SY師**は、「主キリストのあがないの恵みを  
覚えて、生きている人こそ」教会においても、  
天国においても、いちばん偉い人なのです、  
と仰せです。

⇒マタイ25:40【口語訳】

40 すると、王は答えて言うであろう、『あなたが  
たによく言うておく。わたしの兄弟である  
これらの最も小さい者のひとりにしたのは、  
すなわち、わたしにしたのである』。

⇒また、**SY師**は、天国では、身を低くする人が  
いちばん偉い人で、教会の中でも、主が贖わ  
れた兄弟をキリストのように仕えられるので  
すと、仰せです。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日は、**マタイ17:21～27節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、ピリポ・カイザリヤからガリラヤに帰り、弟子たちにご自身の死と復活について予告をなさいました。
- ⇒それは、弟子教育のためで、群衆やその他の**ユダヤ人**のためでもありませんでした。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、出エジプト記30章11～16節に律法として規定されていた宮への納入金のことに触れ、譬えを用い、王子には納税の義務がないと語りつつ、人々をつまずかせないために、魚から銀貨を取って、納税することをなさいました。ユダが財布を管理していたので、納税できたのですが、

弟子たちの教育のため、奇蹟をされました。

⇒主は、弟子たちに、子供のように身を低くして、互いに仕え合うことを比喩をもって語って下さいました。

⇒教会は、主の死と復活によって、贖って下さった兄弟姉妹として、互いを尊敬し、仕え合うことができますところでは。

⇒マルコ9:35【口語訳】

35 イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。